

平成5年度(第10回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>士別サフォーク研究会 (北海道士別市)</p> <p>http://www.shibetsu.nie.jp/suffolk/</p>	<p>サフォーク種の羊を活用した地域の活性化への取り組みを実施。地元物産の販売・PR・商品開発、広報活動用ビデオの作成、ファッションショーの開催を行うなど地域活性化に取り組んできた。士別サフォーク研究会は、昭和57年に設立され4半世紀を越える活動の歴史がある団体である。</p> <p>平成15年度から、羊毛を使った編み物、織物、工芸品等の作品を広く募集して、羊と雲の丘の「世界のめん羊館」に作品を展示し、来場者の投票による審査の結果で賞を決定する「全国ニット大賞」を開催している。</p> <p>また、関係団体・機関・行政など全市の連携のもと平成17年に設立した「サフォークランド士別プロジェクト」の主要構成団体として参画し、「サフォーク羊によるまちづくり」のさらなる発展に寄与している。</p> <p>さらに、平成21年度に通年で羊毛工芸体験ができる施設として開設された「めん羊工芸館くるるん」においては、下部組織である「くるるん会」が運営主体となり体験型観光を進めている。</p> 	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>士別市総務部企画振興室企画課 0165-23-3121</p>
<p>板柳町(青森県板柳町)</p> <p>http://www.town.itayanaagi.aomori.jp/</p>	<p>徹底して「りんご」にこだわった地域活性化の推進を実施。拠点施設ふるさとセンターの建設、りんごによる地場産業おこし、地場産品開発会議・アップルレディセミナーの開催などに取り組んできた。現在、「日本一のりんごの里づくり」を町の基本目標に掲げ、徹底して「りんご」にこだわった地域活性化を推進。</p> <p>昭和63年に町経済発展の拠点施設「ふるさとセンター」が完成してからは、りんご産業と観光的要素をミックスさせた通年型の滞在機能や魅力ある地場産品の開発・加工、流通システムの整備など地域性豊かな産業振興を推進し、平成14年には、消費者の皆さんに安心して食べることができる安全なりんごをお届けするための条例「りんごまるかじり条例」を制定している。</p> 	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>板柳町企画財政課 0172-73-2111</p>
<p>佐渡國鬼太鼓in原宿実行委員会(新潟県羽茂町ほか)</p> <p>解散</p>	<p>島内の舞踊、太鼓等伝統芸能について原宿で披露するとともに、特産物の紹介・販売を行い、「佐渡」を幅広くアピール。県外・国内の公演もあり、イベントを機会に島内や同出身者はもとより、首都圏芸能団体等との交流へと拡大する等、地域活性化に貢献した。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	

<p>国際陶磁器展美濃開催実行委員会(岐阜県多治見市ほか)</p> <p>http://www.icfmino.com</p>	<p>3年毎に開催される「焼き物オリンピック」として世界63か国が参加。今回で3回目の開催であり、「美濃焼」のイメージアップと世界的な人・情報交流拠点、「世界の陶器」を地域内外へアピールを行ってきた。3年に1度のサイクルで「国際陶磁器フェスティバル美濃」を継続して開催している。</p> 	<p>国際交流</p>	<p>国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会</p> <p>0572-25-4111</p>
<p>津山国際総合音楽祭委員会(岡山県津山市)</p>	<p>クラシックのみならず広く音楽の愛好家が多い同市の音楽を通じたまちづくりの推進を実施。「津山国際総合音楽祭」などのイベント開催を通じ、地域の活性化が図られてきた。現在、音楽を通じたまちづくりの推進を図るため、「津山国際総合音楽祭」を3年に1回実施している。クラシックのみならず、幅広いジャンルの音楽を取り入れ、市民に愛されるイベントとなるよう取り組んでいる。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>津山市経済文化部文化振興課</p> <p>0868-32-2122</p>
<p>鷹島町(長崎県鷹島町)</p> <p>http://www.city-matsuura.jp/www/contents/1204947250630/index.html</p>	<p>元寇の役など史実をもとに、モンゴル国との交流を深め、「元寇ロマンのしまづくり」を推進。交流事業、地場産品開発、モンゴル村づくりなどによる地域づくり活動に組んできた。平成18年1月1日、長崎県松浦市、北松浦郡鷹島町、北松浦郡福島町が合併し、新たに「松浦市」となった。モンゴル国ホジルト市との交流については、平成13年度まで交流団派遣を実施していたが、それ以後、交流団の派遣は行っていない。近年のモンゴルとの交流事業については、鷹島町において毎年開催している「モンゴル祭り」において、モンゴル出身力士を招き交流会を行っているが、モンゴル国ホジルト市との直接的な交流は行っていない。</p> 	<p>国際交流</p>	<p>松浦市(旧鷹島町)まちづくり推進課</p> <p>0956-72-1111</p>

<p>社団法人熊本県青年塾(熊本県宇土市)</p>	<p>地域づくりを志す青年の活動と全国の団体とのネットワーク形成に取り組んできた。 現在、モノからではなく、心の問題から出発した地域づくりグループである。郷土の将来のため、本音で語り合い、99%は己のこと。残りの1%は自分の住む地域社会のためにと行動を起こして行く会である。住民の意識おこしを理念に船場川クリーン作戦、教育講演会、宇土の歴史講座、地域づくりシンポジウム、温知館講座等の活動を行っている。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>宇土市総務企画部まちづくり推進課 0964-22-1111</p>
<p>大分方言まるだし弁論大会実行委員会(大分県豊後高田市)</p>	<p>身近な方言にスポットをあて「大分方言まるだし弁論大会」を開催。まちづくり等をテーマとした文化講演会、農産物即売会を併せて実施する等、ボランティアによる運営で名物行事として定着してきた。現在、自分達が日常使っている身近な方言にスポットをあて、消えつつある方言を見直してふるさとの再発見をしようと若者で結成しているまちづくりグループ「テンブランド」のメンバーが主体となって企画し、昭和58年より毎年1回開催している。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>豊後高田市商工観光課観光係 0978-22-3100</p>



平成4年度(第9回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>七ヶ宿町(宮城県七ヶ宿町)</p> <p>http://www.town.shichikashuku.miyagi.jp/</p>	<p>急速な過疎化・高齢化が進む中、新たな地域づくりとして「スキー場の整備」や宿場町という歴史的な特性を活かした「わらじで歩こう七ヶ宿」や「旅姿コンテスト」などのイベントを開催。また、建設されたダムを活用した「湖水祭り」を実施するなど地域の活性化に取り組んできた。</p> <p>昭和60年に開設した七ヶ宿スキー場は、まちづくりの核としてオープンし、最盛期にはパブル景気等とも相まって、年間10万人のスキー客で賑わい、地元住民の雇用の場となり、都市住民との交流の場となり町の知名度アップに多大な効果があった。パブル崩壊後は、入れ込み客数が3万人程度にまで落ち込み、平成17年4月に、指定管理者制度により、町民有志により設立された民間企業に経営を委託。現在、この企業が、メインとなる客層をファミリーにターゲットを絞るとともに、過剰な投資をしない経営戦略により黒字営業を展開し、開設所期の目的である雇用の創出と都市住民との交流の目的を果たしている。</p> <p>「わらじで歩こう七ヶ宿」は、開催24回を数え、毎年、参加人数は600人を数えている。羽州街道沿いの自治体や伊達家重臣、片倉小重郎の鉄砲隊と連携するなど、イベントに趣向を凝らすとともに、町民総出で参加者を歓迎しおもてなしをしている。</p> <p>七ヶ宿ダムは、宮城県民183万人の命の水として位置づけが認識され、水稲栽培農家グループ、地元小学校と大手ビールメーカーの交流が図られるなど、水源地の環境を守る取組が行われている。</p> <p>過疎高齢化が深刻であるが、各集落に地域づくり委員会を立ち上げ、生活するうえでの課題や不安を、住民自らが考え話し合いを行い、解決策を探っていく、また、行政は、一緒になって考えバックアップを行っていくという地域づくり事業を展開している。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>七ヶ宿町 0224-37- 総務課企 2194 画係</p>
<p>能代ミュージカル制作委員会(秋田県能代町)</p>	<p>本会は、能代に関わる題材を取り上げ、原作、脚本、音楽をはじめ、全てが市民の手によって作られるミュージカルであり、地域が抱えるその時々々の話題をタイムリーに取り上げて上演するなど、社会的反響も大きく、地域の活力を与えてきた。</p> <p>能代ミュージカルは、昭和55年、能代市文化会館の開館とともに始まった市民参加型のミュージカルであり、能代ミュージカル制作委員会を中心に、脚本、音楽をはじめスタッフ・出演者など市民の手によって作り上げられる公演は、いまでは冬の風物詩となるほど地域に定着している。</p> <p>能代ミュージカルのテーマが、地域の歴史や民話、時事問題など地域に密着したテーマであるため、市民が地域を見つめ直す契機となり、地域に活力を与えている。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>能代市教育委員会 0185-73- 生涯学習課 5285</p>



写真:北羽新報社より提供

<p>全国短歌フォーラム実行委員会(長野県塩尻市)</p> <p>http://www.city.shioiri.nagano.jp/ctg/510112/510112.html</p>	<p>近代短歌の日本を代表する歌人のゆかりの地とされる塩尻において、歌人の偉大な業績を表彰するとともに、郷土の文化振興とフォーラムを通じた地域イメージを確立し、産業、観光面へ付加価値を与えることを目的に設立。市民の協力の下、全国短歌フォーラムを6年前から開催するなど、地域興しの核となるべき事業を行ってきた。</p> <p>近代短歌の日本を代表する歌人のゆかりの地である塩尻において、歌人の偉大な業績を顕彰し、平成9年には塩尻短歌館(国有形登録文化財)を開館している。</p> <p>地域の文化の振興を図り、文化の香り高い地域イメージを確立するため、事業面では地域住民の参加協力の下、地域振興の核となる行事「全国短歌フォーラムin塩尻」を毎年開催し、塩尻の文化を全国にPRするとともに観光面へも付加価値を与えている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>塩尻市社会教育課 0263-52-0280</p>
<p>財団法人からいも交流財団(鹿児島県鹿屋市)</p> <p>http://www.karaimok.com/index.html</p>	<p>農産物の自由化を控え、唐芋を通じて鹿児島の農業を世界にアピールすることを目的に活動を展開。56年度より都会で学ぶ留学生を鹿児島の農村に招き、ホームステイを通じて相互理解を図ったり、カンボジアの農村に行き交流を深めるなど唐芋による国際交流を実施してきた。</p> <p>ホームステイ事業は、日本在住の留学生を全国から南九州に2週間招いて行うもので、家族・地域の一員として家庭交流・労働交流・地域交流を通じて、相互理解を促進している。また、地域社会の閉鎖性を異文化交流を通して打破し、目覚め、自立への道を切り開き、活力と誇りのある地域づくりを創造している。</p> 	<p>国際交流</p>	<p>鹿屋市市民活動推進課 0994-43-2111</p>
<p>江差地域大学(北海道江差町)</p> <p>閉校</p>	<p>本会は、過疎化が進む中、住民として何か出来ないかという考えの基、住民が手づくりで企画・運営する「江差地域大学」を開校。運営費として住民から一人1万円を集めるなど、地域と一体となった活動を展開。現在12期を迎え、住民の大多数が受講しているなど、地域の活性化に貢献した。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	

<p>社団法人岩泉町産業開発公社(岩手県岩泉町)</p> <p>http://www.rvusendo-water.co.jp/</p>	<p>鉱山の閉山や工場の閉鎖など地域の過疎化が進む中、町の活性化を図るために設立。地元の「龍泉洞地底湖」の水を活用したミネラルウォーターの販売について、公社職員の営業活動等の効果により年々売り上げが伸びるなど、「水」による地域活性化が図られてきた。</p> <p>平成14年に、龍泉洞の水販売などの収益部門は株式会社岩泉産業開発で行うことになり、公益事業部門は引き続き社団法人岩泉町産業開発公社で実施。平成16年に、公益事業部門を株式会社岩泉町産業開発で行い、農業関係の事業を行うということで社団法人岩泉農業振興公社に名称変更している。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>岩泉町政 0194-22- 策推進課 2111</p>
<p>八東町高校生サークル「アウトロー」(鳥取県八東町)</p> <p>解散</p>	<p>学校生活、受験勉強に陥りがちな高校生に、少しでも地域との交流のパイプになればという思いから取り組みを開始。老人ホームの訪問、子供会指導、保育所訪問等を行うなど地域との交流に努めた。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>郷土の文化と国際交流を考える会(大分県大分市)</p> <p>活動休止</p>	<p>「外国人に日本のことを知ってもらいたい、同時に自分達も外国のことを知りたい」を目的にホームステイを実施。10年間で世界77ヶ国1,767名の外国の若者が会員の家庭にホームステイするなど、閉鎖的な地域だった本地域が、世界に開かれた地域へと変貌を遂げた。</p>	<p>国際交流</p>	<p>大分市企 097-537- 画部文化 5719 国際課</p>



平成3年度(第8回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>市民創作「函館野外劇」の会(北海道函館市)</p>	<p>青函トンネル開通を期に地域文化の発展とまちづくりの推進に寄与することを目的として、函館の歴史と伝統を基にして1988年にスタートした「函館野外劇」は、毎回500人以上の市民ボランティアが出演参加して行う地域独自の文化芸術活動であり、国内最大規模の野外劇公演である。特別史跡「五稜郭跡」のすばらしいロケーションを活かし、毎年7月～8月の期間に10回程度上演され、函館の夏の風物詩として全国に発信することにより地域の活性化に貢献している。</p> <div data-bbox="568 539 924 801" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">函館野外劇</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>函館市教育委員会 0138-21-3495 生涯学習部文化振興課</p>
<p>ポール・ラッシュ祭 八ヶ岳カンティフェア実行委員会(山梨県高根町ほか) http://www.keep.or.jp/ia/prf/</p>	<p>キャンプ場や清泉寮、農村センターの整備を行ったポールラッシュ博士の功績・ボランティア精神を背景に、農村生活向上を目的に、昭和63年から「ポール・ラッシュ祭 八ヶ岳カンティフェア」を開催し、地域の活性化に貢献してきた。カンティフェアとは、八ヶ岳南麓の収穫感謝祭であり、広々とした牧草地を舞台に、2日間に渡って様々なイベントが行われており、アメリカからの参加者も多く、来場者数は5万人を超える国際交流イベントである。</p> <div data-bbox="619 1077 847 1352" data-label="Image"> </div>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>北杜市産業観光部 0551-42-1351 観光・商工課</p>
<p>東美濃高原開発推進協議会(岐阜県中津川市ほか)</p> <p style="text-align: center;">解散</p>	<p>本会は、東美濃地域の7つの市町村の独自のまちおこしや個性あるまちづくりを進めることを目的に設立。地域振興構想(レインボープラン)を策定し、各種イベントを開催するなど東美濃の広域的な地域活性化に貢献した。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>仁摩町シルバーランド計画推進協議会(島根県仁摩町)</p> <p style="text-align: center;">解散</p>	<p>昭和60年をまちづくり元年と位置づけ、地域づくりを開始。仁摩町の特徴である鳴き砂の浜と高齢者を活かし、「三適運動(自分の町に合ったイメージ、特産品、他市町村との交流)」による地域活性化を行った。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	
<p>ラプリーさい販売事業協議会(青森県佐井村)</p> <p style="text-align: center;">解散</p>	<p>過疎化が進む中、新鮮で豊富な水産物、木工芸品、山菜等、村の誇れる地場産品を都会の住む村出身者や知人を対象に販売する「ふるさと宅急便(ラプリーさい)」を実施。他地域では真似出来ないような宅配物としたり、併せて村の情報誌を送付するなど、特産物の需要拡大及び地場産業の育成等にご貢献した。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	

<p>埼玉交響楽団(埼玉県熊谷市)</p> <p>http://www.geocities.jp/saitama_symphony/index.html</p>	<p>戦後の荒廃期に他の町に負けぬ楽団を作ろうと、昭和22年結成した楽団を母体に昭和35年、埼玉交響楽団として活動を開始。埼玉県では最も歴史あるアマチュア楽団として、熊谷市に本拠を置き地域の音楽文化の向上に寄与してきた。</p> <p>受賞後も活発に活動を続け、平成9年には地元熊谷市にオープンしたクラシックホール、「熊谷文化創造館さくらめいと」とフランチャイズ協定を結び、年2回の定期演奏会と夏休みに親子コンサートを開催。また、熊谷市音楽連絡協議会主催の若手演奏家育成を目指した「さくらの街熊谷ガラコンサート」の伴奏を担当するなど、幅広く地域に貢献している。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>熊谷市総合政策部企画課 048-524-1111</p>
<p>小城源氏ポタル保存会(佐賀県小城町)</p>	<p>「21世紀に光の帯を」を合い言葉に、清流の里がイメージされる源氏ポタルを育てて河川の浄化を行うことを目的に、昭和59年に設立。現在では会員数も140名と増加、環境や観光資源として地域の活性化に貢献している。</p> <p>現在、佐賀県小城市の初夏の風物詩といえば、祇園川の源氏ポタルが、まず思い浮かぶが、一時期、河川の環境悪化などで絶滅が危惧された時期もあった。</p> <p>「ポタルの乱舞をもう一度見たい」との気持ちで、小城の自然に育てられた地元有志が集まり「小城源氏ポタル保存会」が、ポタルの里づくりを目指して設立されたのは昭和59年。</p> <p>それ以来、「21世紀に光の帯を」を合い言葉に、「河川の浄化」「幼虫の飼育・放流」「保護バトロール」「案内ボランティア」「自然保護の啓蒙活動」といった地道な活動を続けられた結果、着実にポタルは増加し、今では、地元の小学校や商工会議所などを巻き込んだ活動も実施されており、その数、数十万匹とも言われる九州でも指折りのポタルの里になった。</p> <p>また、祇園川の源氏ポタルは、平成元年には環境省(当時は環境庁)の「ふるさといきものの里100選」にも選定されている。</p> 	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>小城市産業部商工観光課 0952-73-8813</p>
<p>グループこすもす(大分県杵築市)</p> <p>解散</p>	<p>都会からのUターン者と地元の同年代の若者とが、自分たちの町の方向性について検討することを目的に発足。その結果、多くの意見をまとめた提言書「きつき維新'83」をまとめたり、コスモスロードの整備を行うなど、地域活性化に貢献した。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	

平成2年度(第7回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>市民フォーラムを進める会(宮城県気仙沼市)</p> <p>解散</p>	<p>地域経済の再構築とその振興策を模索し、水産業の低迷からの脱却を目指し、また世界一の港町づくりを目指し7年前に結成。研究視察、地域振興顕賞募集、月1回のフォーラムやシンポジウムの開催、海・風土(シーフード)まつりや5・5あんばはん等のイベント展開など、この7年間で200を超える事業に関わり、積極的な地域づくり活動を進めた。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>四国こんぴら歌舞伎大芝居推進協議会(香川県琴平町)</p> <p>http://www.town.kotohira.kagawa.jp</p>	<p>昭和48年の石油ショック以来、観光客が減り続け、その打開策が望まれている中、天保6年に創建された日本最古の芝居小屋で国指定重要文化財「旧金毘羅大芝居」の建物を活用し、毎年春に歌舞伎公演を行っている。昭和60年から始まったこの公演は、公演間近になると、より一層盛り上げるために町中に「歌舞伎のぼり」を立て、芝居で栄えた江戸時代風の町並みに変わる。</p> <p>また、歌舞伎初日公演の前日には、役者行列が町中を練り歩く「お練り」があり、沿道では花形役者を一目見ようと人が溢れかえり、町は歌舞伎ムード一色につつまれる。</p> <p>公演期間中は座席案内を行うボランティアのお茶子さんや、全て人力の舞台仕掛け(明り窓、廻り舞台、セリ、すっぽん等)を手伝う町の商工会青年部にご協力をいただいている。</p> <p>一度小屋に入ると江戸時代にタイムスリップしたかのような雰囲気を感じることができ、地域資源を活かしたまちづくりとして、四国路の春を告げる風物詩として盛況いただいている。昭和60年に江戸時代の手法をそのままにした歌舞伎公演を実現。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>琴平町総務課 0877-75-6701</p>
<p>伊王島町(長崎県伊王島町)</p> <p>http://www.iouiima.jp/</p>	<p>長崎県南西部の伊王島と沖ノ島の2つの島で構成される小さな町が、第三セクター「ルネサンス長崎・伊王島」を中心に、宿泊施設やスポーツ施設の整備が進められ、町民総ぐるみにより、ヨットレースや国際女子テニス大会を開催する等、町おこし、産業おこしを進めてきた。</p> <p>受賞当時「ルネサンス長崎・伊王島」を運営していた第三セクターは平成13年12月に解散し、平成14年1月末をもって施設はすべて閉鎖されたが、平成15年7月、閉鎖された施設を伊王島町が施設を買い取り、民間企業にその管理運営を委託し、リゾート施設「やすらぎ伊王島」として再開。伊王島町は、平成17年1月4日、編入合併により長崎市となり、現在、施設は長崎市が受け継ぎ、同企業が指定管理者として引き続き管理運営を行っている。</p> <p>伊王島においては、年間約15万人の利用客があるこの「やすらぎ伊王島」と海水浴場を核としながら、島民の手によるペーロンまつり、桜まつり、ウォークラリーなどのイベントが開催され、交流人口の拡大が図られている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>長崎市(旧伊王島町) 095-829-1285 企画財政部地域振興課</p>

<p>岩木3・6・1の会(青森県岩木町)</p> <p>解散</p>	<p>ジャイゴ(田舎)であることを嘆く前に、自分たちの住む町を見つめ直し、質の高い生活と産業を創り、21世紀へ向けて魅力あふれる町を築くことを目的に「ジャイゴに住む幸せ再発見」をテーマに結成。未(3)来へ向(6)かって一(1)歩前進を合い言葉に、地域の活性化に取り組んだ。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>世田谷区(東京都世田谷区)</p> <p>http://www.city.setagaya.tokyo.jp/</p>	<p>同区は、受賞当時、「実際に町を歩き、問題を体で感じ、自ら提案していくこと」をテーマに、縦割りになりがちな事務調整方式を、横つなぎになるよう配慮し、「住民の自治意識の向上」「住民の自治能力の開発」を目指した「まちづくりリレーイベント」と称するユニークな一連の事業を展開した。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>世田谷区 03-5432-2039 都市整備部地域整備課都市デザイン担当</p>
<p>となみ少年国際交流推進協議会(富山県砺波市ほか)</p> <p>解散</p>	<p>(社)となみ青年会議所が、その記念事業として国際的視野とふるさと愛を兼ね備えた若者の育成を目的に、同推進協議会を設立。青年会議所会員とOBの手によって、中学生をアメリカ西海岸研修に送り出す「となみ少年の翼」を実施するなど、圏域市町村の国際交流推進に大きな役割を果たした。</p>	<p>国際交流</p>	
<p>川上村(奈良県川上村)</p> <p>http://www.vill.kawakami.nara.jp</p>	<p>近年の林業の不振、高齢化、ダム建設による一部民家の村外移転などの問題から、新しいむらづくりの対応が迫られている中、村として村営ホテルや木工の里の建設、全国川上サミットの開催等、産業振興活性化策を打ち出すなど地域づくりが行われている。観光振興、交流における村の顔としての役割を果たしてきた村営のホテルについては、オープン以来20年余りを経過した。22年度にリニューアルをし、再生へ向けスタートした。観光振興、交流における村の顔としての役割を果たしてきた。平成8年に全国川上サミットについては、平成8年に「川上宣言」を全国に向け発信。宣言文の具現化イコール村づくりとして「水源地の村づくりを進めてきた。その具現化として、源流部の原生林740haを購入し、「吉野川一水源地の森」として保全と活用を図っている。「水源地の村づくり」の拠点施設として平成14年に「森と水の源流館」を建設し、同時に「財団法人吉野川紀の川源流物語」を設立。財団が「吉野川源流一水源地の森」の管理を受託。また環境教育や自然観察などの自主活動を行っている。また平成12年に「匠の聚」という芸術村をオープンするなどの村づくりを進めている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>川上村企 0746-52- 画財政課 0111</p>

<p>吹上浜砂の祭典実行委員会(鹿児島県加世田市)</p> <p>http://www.sand-minamisatsuma.jp</p>	<p>若者の流失や人口の高齢化で活力に陰りがみえる中、自然の中での余暇利用の志向が高まってきていることから、「吹上浜」の広大な自然を活かした地域活性化策として市民総ぐるみのイベント「吹上浜砂の祭典」が誕生。本地域の人づくり地域づくりに大きな成果をあげてきた。</p> <p>「吹上浜砂の祭典」は、昭和62年に始まった鹿児島県南さつま市で行われているイベントである。日本三大砂丘の一つ・吹上浜の砂を活用することで、自然環境の大切さを再認識し、人と自然が調和した21世紀にふさわしいイベントを目指している。また、吹上浜を中心として、環境に配慮した砂文化を創造し、教育・芸術・産業・健康づくりなど幅広い分野への波及効果を促し、地域情報の発信はもとより、人と人との交流を深め、郷土愛を育みながら、人づくり、地域づくりに貢献するとともに、地域の活性化に資することを目的としている。</p> <p>2003年には「吹上浜砂の祭典 Sand & Flower Festa」としてリニューアルスタートし、会場にはメインとなる砂像のほかにも、春を彩る花々が並び、来場者を魅了している。</p> <p>実行委員会は、市内外の各種団体51団体から構成され、市民団体、事業所、学校、行政などが連携し、一体となって「吹上浜砂の祭典」を開催している。</p> <div data-bbox="528 629 951 904" data-label="Image"> </div>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>南さつま市 0993-53-産業おこし 2111 部観光交流課</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------	----------------------------------------

平成元年度(第6回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>ポートフェスティバル実行委員会(北海道小樽市)</p> <p>解散</p>	<p>小樽運河の一部に道路計画の動きがある中、運河の保存運動が起こり、それを契機に「手づくりの文化、わが街、水辺の祭り」をテーマに、運河周辺で「ポートフェスティバル」を開催。この取り組みにより、小樽運河の再生に向け取り組みへと発展するなど、成果につながった。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>遠野市及び遠野物語ファンタジー制作委員会(岩手県遠野市)</p> <p>http://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/35.0.168.215.html</p>	<p>昭和46年、遠野市民センターが建設され、そこで演劇活動を行ってみたいという熱意が発端となり、市の青年団を中心に市民による手づくりの舞台創作活動が開始。毎年、各地区の持ち回りにより、各地区に関する題材をテーマとした公演が実施されており、本取り組みにより、地域文化の向上、地域活性化に顕著な効果があった。</p> <p>柳田國男が全国的に有名にした「遠野物語」、柳田と交流のあった遠野の佐々木喜善の「聴耳草紙」、遠野のたくさんの口承民話など、それらの話を拾い上げ、市民の手作りで公演する市民と行政の共同での取り組みが遠野物語ファンタジーである。演劇に加え、自作のオリジナル音楽の生演奏、バレエ、民俗芸能を盛り込んだ総合創作舞台で、昭和51年の「笛と童子」上演以来、これまで毎年公演を行っている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>遠野市遠野市民センター社会教育課 0198-62-4413</p>
<p>利賀村及び財団法人国際舞台芸術研究所(富山県利賀村)</p> <p>www.scot-suzukicompany.com/</p> <p>解散</p>	<p>空き家となった合掌造りの民家を劇場に改装し、そこで東京の劇団が演劇の上演を行ったことを契機に、本財団を設立。屋外野外劇場を整備し世界演劇祭を行うなど、国際的にも利賀村のイメージアップにつながり、地域の活性化に貢献してきた。</p> <p>財団法人国際舞台芸術研究所は、平成12年3月に解散したが、その事業は、財団法人舞台芸術財団演劇人会議に引き継がれた。本会議は、利賀芸術公園を世界演劇・地域振興の拠点として、「利賀フェスティバル」や「利賀サマー・プログラム」を開催し、世界一流の舞台芸術家が集う、国内外から注目される南砺市の誇れる事業を行っている。</p> <p>利賀フェスティバルは、南砺市利賀という場で異なる文化圏の芸術家が交流し、南砺市民と出会うことをとおして、相互理解を深め、世界の新しい舞台芸術の創造に貢献するとともに、南砺市における芸術文化の創成に役立っている。</p> <p>また、「利賀サマー・プログラム」は、人材育成の総合的なプログラムとして、わが国初の試みを2000年からスタートした。以来、8年間で多くの人材育成を支援し、優れた演劇人を輩出している。</p> <p>これらの国際的な舞台芸術人材育成などの専門的な創造、普及、教育事業は、富山県と南砺市が利賀芸術公園を中心に世界に開かれた舞台芸術の拠点づくりを進めている。</p>	<p>国際交流</p>	<p>南砺市教育委員会 文化課・文化振興課 0763-23-2014</p>

<p>「博物館都市構想」を推進する一連の活動体(滋賀県長浜市)</p>	<p>昭和59年に地域の文化の見直しを通じて文化の再構築を図る「博物館都市構想」総合計画を策定。芸術版楽市楽座や3セク「黒壁」による明治時代の銀行を活用した黒壁スクエアの整備、ふるさと情報誌の発刊、地元商業者と大手進出業者との共同開発による新しい都市空間「長浜楽市」の整備等、協働による地域づくりが行われてきた。 現在、博物館都市構想の推進には様々な団体等が連動して一つのまちづくり運動体を形成しており、現在に至るまで、長浜出世まつり実行委員会、株式会社黒壁、国友歴史文化保存会、長浜観光ボランティアガイド協会、長浜みーな編集室、長浜アメニティ会議、NPOまちづくり役場といったまちづくり第一線を担う主な団体が活動している。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>長浜市企画部企画調整課 0749-65-6505</p>
<p>中山道若衆会(岐阜県美濃加茂市) http://wellworks.jp/waka/index1.html</p>	<p>郊外型のショッピングセンターの進出により駅前商店街が寂れる中、「昔の賑わい、今再び」を合い言葉に、中山道太田宿にかつての活気を取り戻そうと、若手商店主らによる中山道まつりを実施。さらに中山道の共通テーマのもと東京から京都にいたる69宿の商店街会員に呼びかけ、中山道宿場会議を開催し、地域間交流による活性化を図ってきた。 現在、継続的に行われている「中山道まつり」への参画、他団体が主催する地元イベントに協力するなど、中山道太田宿及び地元商店街の活性化に尽力している。また、中山道全国協議会に加盟し、毎年行われている宿場会議に参加し、地域間交流の活性化を図っている。</p>	<p>商店街の活性化</p>	<p>美濃加茂市環境経済部商工観光課 0574-25-2111</p>
<p>網野ふるさと塾(京都府網野町) 活動休止</p>	<p>本会は、地域活性化の方策を検討することを目的に地域住民が設立。子午線、丹後ちりめん産業を活かした「子午線まつり」や「東経135度市町交流会議」、「端午の節句に丹後でタンゴの音楽会」などのイベントを開催するなど、地域づくり活動に取り組んでいる。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>京丹後市市民部市民協働課 0772-69-0240</p>
<p>大分川流域ヘルシー観光事業連盟(大分県庄内町ほか) 解散</p>	<p>広域農道の開通等、地域内の交通整備が進んだのを契機に、連盟を結成。5町村共同で、観光ルートの整備やパンフレットの作成、キャンペーン活動等を実施した。</p>	<p>観光振興</p>	



昭和63年度(第5回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>みやぎ北上連邦協議会(宮城県登米町ほか)</p> <p>http://www12.plala.or.jp/aburahu/toyoma/link/renpoo.html</p>	<p>過疎化に悩む北上川流域の4町が、共同して地域課題の解決を図っていくことを目的に設立。ミニ独立国「みやぎ北上連邦」を建国。その中で「みやぎ北上連邦地域活性化計画」を作成し、共同でイベントを開催するなど、地域が一体となって地域活性化に取り組んできた。</p> <p>現在も、地域文化や観光・各地域で行うイベント等の情報発信にも意欲的に取り組み、さらに、三陸縦貫自動車道・登米ICや登米東和ICの開通により、都市圏域や他地域からの交流人口の増加を図る事業を展開している。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>登米市産業経済部 0220-34-2734 商工観光課</p>
<p>人形カーニバル飯田実行委員会(長野県飯田市)</p> <p>http://www.iida-puppet.com/index.html</p>	<p>国際児童年事業の一環として、人形劇の上演を計画する中、市内全域で人形劇公演を行い、市民と人形劇関係者との交流を深めるために人形カーニバルを実施。公民館やスナック、歩行者天国、スーパーが公演会場となるなど市民一体となって開催することに成功。この取り組みを契機に「世界人形フェスティバル」を開催する等、人形劇を通じて、地域の国際化が図られてきた。</p> <p>人形劇カーニバルは20回で終了し、平成11年度より「いいだ人形劇フェスタ」として再スタート。市民主体の実行委員会が日本最大の人形劇の祭典の運営を担っている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>飯田市飯田文化会館 0265-23-3552</p>
<p>宮古広域圏事務組合(沖縄県宮古広域市町村圏)</p> <p>解散</p>	<p>地域の活性化を図るため「全日本トライアスロン大会」を本地域で開催。大会の運営に際して、地域住民が積極的にボランティアとして参加することで、地域のコミュニケーションの育成を図った。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	

<p>置戸町商工会青年部 (北海道置戸町)</p> <p>http://www11.ocn.ne.jp/~s-oketo/</p>	<p>全町的なまつりを新しく作ろうとの考えにより、木で繁栄した町の歴史をテーマとした祭り「人間ばん馬大会」を開催。多くの町民がこの祭りに携わるなど、地域の一体感の醸成に貢献してきた。</p> <p>現在、置戸町商工会青年部は、人間ばん馬大会をはじめ町内各種行事、イベント等への積極的な運営、協力を行うなど地域づくり活動を担っている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>置戸町産業振興課 商工観光係</p> <p>0157-52-3312</p>
<p>山形地区住みよい環境推進協議会(青森県黒石市)</p>	<p>地域内の町内会と各種団体が協力して住みよい地域づくりを推進するために結成。協議会が調査・検討を行い、地区の課題をさぐりながら市へ陳情・要望し、歩道の設置や公民館建設、また温湯こけしの産地として史料館建設運動を起し、「津軽こけし館」建設を実現させてきた。</p> <p>現在、黒石温泉郷を有する自然豊かな地域の特性を生かし、「浅瀬石川アートの道・水辺公園」では園児・小学生がイワナの稚魚放流や水質調査などを体験する「水辺の楽校」を実施し、環境学習や自然体験活動を展開している。また、学校や町内会などが連携して「こけしの里大運動会」や「芸能文化祭」を開催するなど、幅広い分野において世代間交流が図られている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>黒石市企画財政部 企画課</p> <p>0172-52-2111</p>
<p>加悦町染色センター運営委員会(京都府加悦町)</p> <p>解散</p>	<p>織物業界が低迷する中、今まで白生地製品のみだったのを、地域の独自性を高めるため、染色まで本地域で行う取り組みを開始。その支援のため、町が「染物センター」を整備し、さらに、センターからのアドバイザーの派遣や講習会の実施を行うなど、地域をあげて丹後織物の普及拡大に取り組んだ。</p>	<p>地場製品の普及・促進</p>	

<p>フォーラム鹿島(佐賀県鹿島市)</p> <p>http://www2.saganet.ne.jp/gatalym/</p>	<p>鹿島の今後のまちづくりを検討するため、青年会議所、商工会青年部、農協青年部、若手市役所職員等をメンバーに設立。「郷土愛」、「人材育成」、「活力・持続」の3つのテーマを掲げて、地元の素材・資源を活かした「まちづくり」を目指している。特に、市の一大イベントである「鹿島ガタリンピック」は、宝の海有明海の干潟を活用したイベントで、現在も開催している。また、修学旅行などでの干潟体験の実施、干潟生物の観察等を通じた環境教室への協力、国際民間交流、イベントへの協力など様々なイベントの企画、参加・協力をを行い、行政機関だけに頼らない「市民によるまちづくり」を実践している。</p> <div data-bbox="541 439 948 734" data-label="Image"> </div>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>鹿島市総務部企画課 0954-63-2101</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------	-------------------------------

昭和62年度(第4回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>最上定住圏づくり推進委員会(山形県最上地域)</p> <p>解散</p>	<p>最上地方の定住圏づくりの円滑な推進を図るために設置。「地域づくりは人づくり」を合い言葉に、「最上圏民大学」の開設や、受講終了者による会の結成、地域づくり活動事例集の刊行等、定住に向けた地域づくり活動が展開された。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	
<p>高島町(滋賀県高島町)</p> <p>http://www.city.takashima.shiga.jp</p>	<p>未来を担う子ども達に夢と冒険心を育むことを目的に「ガリバー青少年旅行村」を整備。高島町(現高島市)はガリバーの町として定着し、これを中心としたまちづくりに取り組んできた。</p> <p>緑の中のプレイスポットとして、自然いっぱい施設には、ガリバー旅行記をコンセプトにしたキャビンやバンガロー、アスレチック遊具などが整備され、夏の夜空を楽しめる天文台や川での魚つかみや水遊び、焼き杉体験教室など自然を相手に家族で楽しめることから、年間、約27,000人の観光客が足を運んでいる。</p> <p>こうした中、「ガリバー」の生みの親・J・スウィフトの故郷がアイルランドであることからアイルランドとの親交がはじまり、「高島町の文化と伝統を大切にしつつ、異文化との交流によって新しい文化の風を興したい」との思いから「たかしまアイルランド交流館 びれっじ」(現在の名称は「高島びれっじ」)が誕生した。平成17年に合併し高島市となってからは、旧高島町を中心とした地域住民の手によって「ガリバーの町」の取り組みが継続され、現在も地域のシンボルとして受け継がれている。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>高島市企画部政策調整課 0740-25-8114</p>



<p>株式会社吉田ふるさと村(島根県吉田村)</p> <p>http://www.y-furusatomura.co.jp/index.html</p>	<p>株式会社吉田ふるさと村は、昭和60年、旧吉田村の産業振興の活路は自分たちの手で開くべく、村をはじめJA、商工会、森林組合などの団体のほか、多数の村民の共同出資により、全国で最も早く設立された第3セクターの1つである。地産地消を目指し、地域の農産物を加工し販売を行うなど村の経済の活性化に貢献。また、村のイメージアップにもつながってきた。</p> <p>安全な食品作りをモットーとする農林産物の加工・販売(特に卵かけご飯専用醤油「おたまはん」は全国でも有名)を中心に、管工事、簡易水道の管理、市民バスの運行、「くつろぎの掛け流しの宿 清覧荘」運営などの業務を行うとともに、多くの従業員を雇用する就労の場としても、地域経済の活性化に大きく貢献している。</p> <p>また、「日本たまごかけごはんシンポジウム」を開催するなど、雲南市の知名度アップに繋がるイベントなども多数手掛けている。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>雲南市(旧 0854-40-吉田村)政 1013 策企画部 地域振興課</p>
<p>陸別商工会青年部(北海道陸別町)</p> <p>http://www10.ocn.ne.jp/~shibare/</p>	<p>過疎化が進む中、地域活性化策として、寒さを活用したイベント「しばれフェスティバル」を開催。人間耐寒コンテストや花火大会、大雪像の展示を行うなど、町の地域活性化、イメージアップにつながってきた。</p> <p>現在、陸別町商工会青年部が中心となってスタートしたイベント「しばれフェスティバル」は、陸別町の寒さという自然環境を地域資源として、観光振興、地域振興並びに町内の人材育成を目的に開催。メインイベントである「人間耐寒テスト」や「しばれ花火大会」を中心とした企画で、常に進化を遂げながら地域の魅力を全国に発信している。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>陸別町産業振興課 0156-27-2141</p>



<p>あいの会「松坂」(三重県松坂市)</p>	<p>歴史のある松坂地域の文化遺産の掘りおこしと活用をテーマに活動を開始。イラストマップ「伊勢商人の古里、松坂ひとり案内」の発刊やボランティアガイドの整備、城下町シンポジウム等を開催するなど、地域活性化に貢献している。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>松阪市総合政策部 政策課 0598-53-4319</p>
<p>中部広域市町村圏事務組合(沖縄県中部広域市町村圏)</p> <p>http://maichu.jp/</p>	<p>昭和59年に「広域観光開発」「商業近代化・特産品の振興」「人材の育成」を基本戦略とした、地域活性化策を推進。その一環として、基地の町として多くの外国人が在住する中、交流を目的に「ピースフルラブ・ロックフェスティバル」を開催する等、外国人との交流による地域活性化に取り組んできた。現在、中部圏域の活性化を目的に「おきなわマラソン大会」「中部広域圏児童及び山形県最上広域圏児童の相互交流」を主に取り組んでいる。</p> <p>おきなわマラソン大会は毎年2月に、日本陸連公認コースで競技・一般フルマラソン及び10キロ部門を併設したマラソン総合イベントを開催し、参加者は約13,000人となるイベントとなっている。</p> <p>昭和63年全国でも唯一の広域圏同士による姉妹締結を結び、平成元年より気候・自然等の違いを体験し、学校や地域のリーダーとして活躍する人材育成を目的に行っている。</p>	<p>国際交流</p>	<p>中部広域市町村圏事務組合 企画課 098-932-1685</p>



昭和61年度(第3回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>田野畑村(岩手県田野畑村)</p> <p>http://www.vill.tanohata.iwate.jp</p>	<p>地理的制約等による過疎化・閉鎖的な地域課題を解決するために、昭和41年から東京の大学生との交流をスタート。その後、昭和59年に三陸鉄道が開通したことを契機に「懐かし村」村民募集事業や「体験学習修学旅行」の受け入れが開始。さらに、アメリカの大学生との交流も始まるなど、交流による地域づくりが行われてきた。</p> <p>東京の大学生との交流や「懐かし村」村民募集事業は現在も継続している。</p> <p>体験学習修学旅行の受け入れは、一時中断した時期もあったが、平成19年度から民泊受け入れの取り組みを再開し、現在、小学生、中学生を受け入れている。</p> <p>アメリカの大学生との交流については、窓口となっていた団体の解散により途絶えているが、民間団体から英語指導助手として米国人教師の派遣を受けて小中学校に巡回もらっており、交際理解教育は継続している。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>田野畑村 0194-34-2111 政策推進課</p>
<p>東遠地域経済研究会(静岡県東遠地域)</p>	<p>東遠地域(掛川市・菊川市・御前崎市)及び牧之原市の広域的視野に立った郷土の特性を活かした魅力ある定住条件の充実と経済発展を図り、地域住民の繁栄と福祉の増進に寄与することを目的に設立。定住圏構想実現の第一歩として、「東遠の未来を考えるシンポジウム」の開催を始め、さまざまなテーマのシンポジウムが行われるなど、地域住民の協力も得ながら、地域の発展に向けた取り組みが行われてきた。</p> <p>地域内の商工会議所、商工会、法人・個人の企業、その他各種民間団体で構成され、東遠地域一円の調査研究、研修会・講演会等の開催、目的達成に必要な意見具申・要望・陳情等の事業を行ってきた。8つの専門部会(総合調整部会、地域交通部会、観光レクリエーション部会、湾岸部会、産業開発部会、資源エネルギー部会、小笠山整備活用部会(I、II))があり、様々な視点から東遠地域発展の実現に向けた取り組みを行っている。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>掛川市企画総務部 0537-21-1127 企画調整課</p>

<p>大島町(長崎県大島町)</p> <p>http://www.city.saikai.nagasaki.jp/</p> <p>http://www.oshima-ivozou.co.jp</p>	<p>炭坑の閉山に伴い、人口が減少していく中、第三セクター会社による芋焼酎づくりや販売をはじめ、地域内外の若者との交流の場を作ることを目的に「大島若人の森」の整備を行うなど、地域の活性化に取り組んできた。</p> <p>昭和60年設立の長崎大島醸造株式会社は、大島の特産品・さつま芋(紅あずま)を原料とした焼酎づくりを実施。芋焼酎「ちようちようさん」は蔵を代表する人気商品。一年を通じて蔵元見学を無料で行っている。また、西海市大島若人の森総合運動公園は、年間を通じて広く住民の利用に供することにより、健全な心身の育成を図るとともに交流を促進し、本市の活性化に寄与することを目的とした施設として、本年度まで多数の市内外の団体が利用している。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>西海市(旧大島町)企画振興部政策企画課</p> <p>0959-37-0063</p>
<p>南茅部沿岸漁業大学(北海道南茅部町)</p>	<p>生涯学習を通じての漁業のふるさとづくりを目的に、昭和53年「南茅部沿岸漁業大学」を設立。18歳以上の町民であれば誰でも入学が可能であるなど、幅広い層に対して専門分野を含んだ学習講座が開かれており、自発的な学習意欲の向上やまちづくりへの意識が高まってきた。</p> <p>平成16年12月1日市町村合併により、名称を「函館市南茅部沿岸漁業大学」とし、現在は、地域の基幹産業に関して、北海道大学水産学部、公立はこだて未来大学や北海道函館水産試験場等の協力を得て、漁獲技術や魚類の資源動向および漁業の担い手対策等について、専修課程講座や各種資格取得講座の開催を中心に展開している。また、地域住民が豊かで生き甲斐に満ちた生活が営まれるよう、市民や女性・高齢者団体等を対象に地域教養講座を開催している。</p> 	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>函館市南茅部教育事務所</p> <p>0138-25-3789</p>

<p>あいちの山村都市交流事業実行委員会(愛知県三河山間地域)</p> <p>http://www.pref.aichi.jp/chiiki/yamazato/vamazato.html</p>	<p>「三河山間地域14町村」が、都市住民にとってのふるさととして身近に感じてもらうために、「愛知の山村展」を昭和54年からスタート。これにより県内各地とさまざまな交流が広がり、都市との交流を通じて地域の活性化が図られてきた。平成11年度に「三河の山里活性化事業実行委員会」に改称。三河山間地域に対する理解と交流の促進と地域の活性化をめざし、「三河の山里体感プラザ」を開催している。</p> 	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>愛知県地域振興部 地域政策課 山村振興室</p> <p>052-954-6097</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------	---------------------------------------------------------

昭和60年度(第2回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>社団法人都城市北諸 県郡医師会(宮崎県都 城市及び北諸県郡)</p> <p>http://www.miyazaki.med.or.jp/miyakonojo/</p>	<p>モデル定住圏計画の一環として、圏域住民が安心して生活することが出来る保健・医療・福祉体制を確立することを目的に「都城地域総合保健医療福祉センター」を整備。隣接する運動公園と一体となって「健康タウン」を構成し、地域の健康管理運動の拠点を形成。</p> <p>都城健康サービスセンター、都城市郡医師会病院、救急医療センターの3つの施設については、昭和60年の開設を迎えた後、行政と医師会との連携による24時間365日切れ目の無い救急医療体制を確立している。県西や鹿児島県も含んだ、より広域的な救急医療の拠点として新たな展開を迎えようとしている。</p> 	<p>地域連携・ 地域おこし</p>	<p>都城市企 0986-23- 画部経営 2115 戦略課</p>
<p>岩木町農業協同組合 婦人部「ふるさとの味 をつくる会」(青森県岩 木町)</p> <p>解散</p>	<p>津軽の代表的なふるさとの味である漬け物の味を保存していくことを目的に活動をスタート。会をあげて無添加の漬け物の製造・販売や栽培技術の向上、消費者へのPR等の取り組みを行い、地域資源を活用した住民自主活動ばかりでなく、地域づくりで先導的な役割を担ってきた。</p>	<p>文化・歴史 資源の継 承・利活用</p>	

<p>三島町(福島県三島町)</p> <p>http://www.town.mishima.fukushima.jp</p>	<p>町が持っている資源を有効に開発・活用するという、地場産業の視点から、三島町では、全国に先駆けて昭和49年より都市との交流を目的とした「ふるさと運動」をスタートさせ、この運動により過疎山村の振興策の流れが生まれた。現在まで、伝統文化・産業等の振興を図り地域の連帯感を図る「地区プライド運動」、豊かな暮らしの基本である健康を守るための「有機農業運動」や「健康づくり運動」といった各種施策を展開している。また、昭和56年から取り組んでいる「生活工芸運動」は、暮らしの中から生まれた伝統的なものづくりの技と豊かな自然を現代の生活にも活かしていく運動として、高齢者を中心に盛んに取り組まれている。</p> <p>これらの運動を通して活力ある町づくりを目指し、平成13年度に策定した第3次三島町振興計画のシンボル事業として「三島町エコ・ミュージアム構想」を掲げ、現在住民主体の町づくりを推進している。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>三島町総務課企画財政係</p> <p>0241-48-5515</p>
<p>日本童話祭実行委員会(大分県玖珠町)</p> <p>http://www.town.kusu.oita.jp/</p>	<p>昭和30年から進められてきた「童話の里のまちづくり」の取り組みにより、21団体の児童文化サークルの誕生や拠点施設「わらしべの館」の建設、日本童話祭の開催など「童話の里」としての地域づくり活動が行われてきた。</p> <p>日本童話祭は、わが町の先哲「久留島武彦」先生の口演童話行脚50年を記念して、昭和25年に第1回が開催されて以来、平成21年に60回目の記念の年を迎えた。玖珠町は、久留島先生の偉業を顕彰して、その精神を継承し、「子どもと夢を」のテーマに象徴されるように、児童文化の高揚と青少年の健全な育成とともに、「子どもと子ども文化」を育てる、いわば「こどものためのイベント」を通して観光振興や地域産業の振興など地域活性化を図ってきた。そのような中で、日本童話祭実行委員会は、官民一体となって、地域ボランティア団体とともに40名の人員で組織され、受賞後も継続的に実施されている。特に三島会場、河川敷会場では地域の自治委員が中心となり、各種団体と連携しながら、おとぎステージや昔の遊び、ジャンボ鯉のぼりのくぐり抜けなど、多彩な催しを独自で開催し、祭を盛り上げている。</p> 	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>大分県玖珠町教育委員会社会教育課</p> <p>0973-72-7151</p>

昭和59年度(第1回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>財団法人地域産業創造センター(宮城県大崎・栗原地域)</p>	<p>「緑と清流に囲まれた明るい活力のあるふるさと」を目指し「大崎・栗原地方モデル定住圏計画」を策定。活力ある地域づくりを進めるため、農林畜産業の一次産品の付加価値を高める「1.5次産業」を目指し、「地域産業創造センター」の整備を行い普及に努めてきた。 当施設は、平成14年7月に財団法人地域産業創造センターの解散により、一度は閉館したものの、平成16年8月にNPO法人や市民活動団体の育成支援、次世代の地域リーダーを養成する「市民活動サポートセンター」を設置し、現在、地域振興を推進する施設の核として、地域づくりに活用している。</p> 	<p>地域連携・ 地域おこし</p>	<p>大崎市市民協働推進部まちづくり推進課 0229-23-5069</p>
<p>津山広域事務組合(岡山県津山市) http://www.koyou.or.jp/index.php</p>	<p>本組合は、雇用の安定対策と若者の定住化を広域的に進めるため、「津山広域市町村圏整備計画」を策定。1市5町の構成団体が一体となり、魅力ある多様な就業の確保、交通ネットワーク、都市機能の整備などの取り組みを行っている。</p> 	<p>地域連携・ 地域おこし</p>	<p>津山市経済文化部産業支援課 0868-24-3633</p>

<p>利根沼田郷土の芸能祭実行委員会(群馬県利根沼田広域市町村圏)</p>	<p>生活意識の変化と自由時間の増大に伴い、芸術文化に対する住民の関心が高まってきたのを契機に、広域圏の施設として文化会館の整備及び広域圏市町村が参加する「郷土の芸術祭」を実施。地域芸能の創造と振興に寄与してきた。昭和50年の第1回より毎年公演を重ねて、現在は、11月の第4週目の土曜日と日曜日の2日間、公演発表を行っている。実行委員会に登録している団体は現在53団体、ジャンルは舞踊から民謡・民謡・大正琴・詩吟・洋舞・洋楽・邦楽と多岐にわたっており、各団体から代表者1名が実行委員となり、年に数回会議をもって運営している。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>利根沼田広域市町村圏振興整備組合担当部局課：利根沼田文化会館</p> <p>0278-24-2935</p>
<p>ふるさと探訪実行委員会(長野県飯伊広域市町村圏)</p> <p>解散</p>	<p>飯伊地域の文化や自然などの地域資源を発見・育てることを目的に「ふるさと探訪 遠山郷を訪ねて」を実施。その結果、ふるさとを見直し再認識する機運が高まった。</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	

